

# 教育研究業績書

所属	職名	氏名
食物栄養学科	准教授	小野 要
<b>I 教育活動</b>		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>優れた教育法の実践例</li> <li>マルチメディアマルチメディアを活用した授業方</li> <li>実験実習の内容、操作を理解する参考資料の作成</li> <li>実験実習レポートおよび実験実習プレゼンテーション</li> <li>ものづくり・商品開発等への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年5月～平成22年3月</li> <li>平成22年4月～</li> <li>平成17年5月～平成22年3月</li> <li>平成23年4月～</li> <li>平成23年4月～</li> <li>平成23年4月～</li> <li>平成26年5月～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学、生化学等の基礎知識及び実験の基礎技術の習得を目的に動物、植物等の生物を用いて観察から機器分析まで広範な領域をテーマに実験を行った。</li> <li>教科書の内容を図式化し説明し理解しやすく講義を行っている。また、授業後に授業説明した箇所をまとめ、復習するようにしている。</li> <li>実験の概要、原理を深く理解するためパワーポイントを用いて実験材料やそれに関する情報を説明した。また、実験操作等も説明した。</li> <li>講義において内容理解を深める目的で特に遺伝子やたんぱく質合成の内容を活用している</li> <li>各実験の原理、基本操作等の理解を深めるため、参考資料の作成し配布している。</li> <li>実験実習では、毎回行った実験毎に理解を深めてもらうためにレポートの課題を出している。さらに理解を深める目的で各班毎に実験実習の内容、結果等を10分程度にまとめ、プレゼンテーションにて説明能力の向上もしている。</li> <li>栄養士過程において専門知識、専門技術の習得を目指している学生に対し、さらにものづくり体験・食育体験を通し、食に関してさらなる興味を痛いてもらうと同時に献立作成アイデアの向上などを目的に参加希望者を募り行っている。</li> <li>・TKUの日オリジナル弁当 米平燕(マイピーエン)(平成26年)</li> <li>・オリジナルさつま揚げのレシピ開発(平成26年)</li> <li>・大麦を用いたスイーツ開発(平成28年)</li> </ul>
(2)作成した教科書・教材・参考書		
<ul style="list-style-type: none"> <li>作成した教科書</li> </ul>		
食べ物と健康 食品の安全	平成25年4月	南江堂,分担執筆,第4章食中毒d自然毒食中毒,83-91(総頁数243)
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> <li>尚綱公開講座</li> <li>高等教育コンソーシアム熊本進学ガイダンスセミナー</li> <li>夏期研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年9月</li> <li>平成24年7月</li> <li>平成25年9月～現在に至る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キッチンサイエンス」というテーマで平成23年9月尚綱公開講座の講師を務めた。</li> <li>「栄養生化学子講座 入門編」というテーマで平成24年7月8日に講師を務めた。</li> <li>毎年、9月に行われる学科の夏期研修会で「人体の構造と機能および疾病の成り立ち・基礎栄養学」(生化学・栄養学)について講義を担当している。</li> </ul>

・ 菊陽町健康フェア	平成28年2月13日	菊陽町健康フェア(菊陽町健康づくり講演会) 「キッチンサイエンス ～健康は食事が大事～」と いうテーマで約120名の菊陽町町民に対して講演 をした。
------------	------------	---

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著 の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻、号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
食べ物と健康 食品の 安全	共著	平成25年4月	南江堂,分担執筆,第4章食中 毒D自然毒食中毒,83- 91(総 頁数243)	編集◎有菌幸司 分担 執筆 小野 要 他19名	83-91
(論文)					
Synthetic surfactants for protecting cultured fish against toxic phytoplankton.	共著	平成10年	Aquaculture Research 29	K. Ono O. Arakawa, Y. Onoue S. Matsumoto H. Shihara K. Takeda, M. Nakanishi, T. Yamaji, K. Uemura Y. Ogawa	569-572
Effects of temperature and light intensity on the growth and toxicity of Heterosigma akashiwo (Raphidophyceae).	共著	平成12年	Aquaculture Research 31	K. Ono S. Khan Y. Onoue	427-433
Environmental factors affecting the neurotoxin production of Chattonella antiqua (Raphidophyceae).	共著	平成13年	9 th International Conference on Harmful Algal Blooms 2000. Intergovernmental Oceanographic commission of UNESCO, Paris.	S. Khan K. Ono M. Haruyama S. Iwashita Y. Onoue	308-311
Comparison studies on the toxicology two Japanese strains of Heterosigma akashiwo (Raphidophyceae).	共著	平成17年	Journal of Aquaculture in the Tropics, 20(1)	S. Khan K. Ono Y. Onoue	1-9
5種の新合成界面活性 剤の赤潮形成種に対す る有効性と魚類への影 響	共著	平成17年	水産増殖 53(1)	小野 要 矢野由里子	61-66
コイ冷蔵中の鮮度低下 に伴う筋タイプ別微細 構造の変化	共著	平成23年	日本食品化学学会誌 18 (3)	梁 佳 槌本六秀 肖 寧 川口夕貴 小野 要 濱田 友貴 谷山 茂人 橋 勝康	168-173
沖縄県沿岸に分布する 腐肉食性および肉性巻 貝の毒性と毒成分	共著	平成25年	食品衛生 54 (1)	谷山茂人 高谷智裕 反町太樹 相良剛史 久保弘文 大城直雅 小野 要 肖 寧 橋 勝康 荒川 修	49-55

熊本県漁業士会との地域連携学習活動による人材育成について	共著	平成25年	熊本県生活科・総合学習教育学会誌 生活と総合13	水本恵子 秋吉澄子 小野 要	47-53
ビタミンD・カルシウム強化牛乳が思春期小児の骨密度増加に与える影響の検討	共著	平成25年	小児科臨床 68(5)	酒井 一樹 西山 宗六 小野 要 鈴木 光幸 成高 中之	1051-1058
平成28年熊本地震における益城町での炊き出し活動に参加して	共著	平成29年	尚綱大学研究紀要 自然科学編 49	秋吉澄子 小野 要	127-140
栄養士養成課程学生における炊き出しボランティア活動経験の効果と今後の課題	共著	平成29年	熊本県生活科・総合学習教育学会誌 生活と総合16	小野 要 秋吉澄子	41-48
乾燥ナマコの投与がラットの実験的肝再生に及ぼす影響	共著	平成29年	日本食品化学学会 24 (2)	小野 要 川井若菜 宮崎里帆 平坂勝也 谷山茂人 橘 勝康	44-49
(その他)					
Environmental factors affecting the neurotoxin production of <i>Chattonella antiqua</i> (Raphidophyceae).	共著	平成12年	9th International Conference on Harmful Algal Blooms, Hobart, Tasmania, Australia	S.Khan M.Haruyama, S.Iwashita K.Ono Y.Onoue	27
Comparison studies on the toxicology of two Japanese strains of <i>Heterosigma akashiwo</i> (Raphidophyceae).	共著	平成12年	9th International Conference on Harmful Algal Blooms, Hobart, Tasmania, Australia, Abstracts	S.Khan K.Ono Y.Onoue	150
Variation of neurotoxin production in axenic and non-axenic cultures of <i>Chattonella antiqua</i> . X International IUPAC symposium	共著	平成12年	X International IUPAC symposium on Mycotoxins and Phycotoxins, Sao Paulo, Brazil, Abstracts	S.Khan K.Ono Y.Onoue	96
Influence of environmental factors on the growth and neurotoxin production of <i>Fibrocapsa japonica</i> (Raphidophyceae).	共著	平成14年	Xth International Conference on Harmful Algae, St.Pete Beach, Florida, USA, Abstracts	S.Khan K.Ono Y.Onoue.	150
単藻培養した紅藻ハナヤナギおよびマクリによる興奮性アミノ酸の産生	共著	平成18年	日本水産学会大会(高知大学)、講演要旨集	奥野尚子 桑野和可 田畑陽子 高谷智裕 小野 要 荒川 修	241
Optimum culture condition and anthelmintic amino acid productivity of two red algae, <i>Chondria armata</i> and <i>Digenea simplex</i> .	共著	平成20年	WFC 2008 5th World Fisheries Congress, Yokohama, JAPAN. 3g-11	Nozomi Ishikawa Kazuyoshi Kuwano Kaname Ono Shigeto Taniyama Tomohiro Takatani Osamu Arakawa	393

Groundwater in Ryukyu archipelago is adequate to rear kuruma shrimp Marsupenaeus japonicus LARVAE.	共著	平成22年		Saichiro Yokoyama Kaname Ono Yumiko Kimura	
アオリイカ外套筋の氷蔵中における微細構造の変化	共著	平成23年	日本水産学会大会(長崎大学)、講演要旨集	田中幹大 梁 佳 肖 寧 水谷麻衣子 川口夕貴 小野 要 谷山茂人 橋 勝康	87
一本釣り漁獲したカツオの血合筋の肉質と鮮度に及ぼす保存条件の影響	共著	平成23年	日本水産学会大会(長崎大学)、講演要旨集	小野 要 園田友紀 梁 佳 黒坂浩平 山下秀幸 小河道生 谷山茂人 橋 勝康	87
養殖ブリトロポミオン特異抗体の作製とヤケ肉発生に伴うトロポミオンの変化	共著	平成23年	日本水産学会大会(長崎大学)、講演要旨集	宮崎里帆 肖 寧 小野 要 谷山茂人 橋 勝康	87
コイ氷蔵中における筋タイプ別の生鮮度低下に伴う微細構造の変化	共著	平成23年	日本水産学会大会(長崎大学)、講演要旨集	梁 佳 槌本六秀 肖 寧 川口夕貴 小野 要 濱田友貴 谷山茂人 橋 勝康	87
東シナ海産アカムツの可食部における一般成分組成とおいしさの関係	共著	平成23年	日本水産学会大会(長崎大学)、講演要旨集	藤丸達矢 梁 佳 小野 要 岡本 昭 森 奈保美 谷山茂人 橋 勝康	102
熊本県漁業士会との地域連携学習活動による人材育成について	共著	平成25年	熊本県生活科・総合学習教育学会(於 熊本大学)(論文内容を口頭発表)	水本恵子 秋吉澄子 小野 要	
栄養士養成課程学生における炊き出しボランティア活動経験の効果と今後の課題	共著	平成29年	熊本県生活科・総合学習教育学会(於 熊本大学)(論文内容を口頭発表)	小野 要 秋吉澄子	

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

(研究活動)	
平成14年 5月～平成15年 3月	北里大学同窓会若手研究者研究奨励賞奨励研究費 研究者代表 「有毒ラフィド藻Heterosigma akashiwo の出現と二枚貝の毒化に関する研究」
平成20年5月～平成21年3月	独立行政法人科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト宮崎イノベーション研究費 研究者代表 「陸地珊瑚礁浸透海水を用いたクルマエビ種苗生産技術の開発に関する研究」
平成21年1月～平成21年7月	有限会社ドリーきかくおよび有限会社大原商事より奨学寄付金 研究者代表
平成27年11月1日～平成27年3月31日	長島町水産加工グループ共通商品の開発及び支援 受託研究費
(学会活動)	

平成 7年4月～	日本水産学会 正会員(現在に至る)
平成 7年4月～	日本増殖学会 正会員(現在に至る)
平成10年4月～	マリントキシン研究会(現在に至る)
平成22年4月～	日本栄養食糧学会 正会員(現在に至る)
平成22年9月～	日本食品衛生学会 正会員(現在に至る)
平成23年4月～	マリントキシン研究会 役員(会計監事)(現在に至る)
平成25年2月～	熊本県生活科・総合学習教育学会 正会員(現在に至る)
平成29年4月～	日本食品化学学会 正会員(現在に至る)
平成29年4月～	熊本県生活科・総合学習教育学会 理事(現在に至る)